

特定非営利活動法人(NPO 法人)シニアサロン井戸端会議

令和5年度 定時総会

(令和5年10月1日～令和6年9月30日)

日時 令和6年11月22日(金) 16時～17時

場所 木町通市民センター(5階会議室)

- 1 開会宣言 司会進行 上林副理事長
- 2 挨拶 羽田理事長
- 3 定足数の確認
- 4 議長選出
- 5 議事録署名人の選任(2名)
- 6 議事
 - (1) 第1号議案 令和5年度事業報告 菊地副理事長
 - (2) 第2号議案 令和5年度決算報告 大友副理事長
 - (3) 監査報告 横濱監事
 - (4) 第3号議案 令和6年度事業計画案 菊地副理事長
 - (5) 第4号議案 令和6年度事業予算案 大友副理事長
 - (6) 第5号議案 役員変更の件 羽田理事長
 - (7) その他
- 7 閉会
- 8 大忘年会(総会終了後)
 - ・日時 令和6年11月22日(金) 17:30時より
 - ・場所 『ふじはる』
 - ・会費 4,500円
 - 司会 菊地副理事長
 - 挨拶 羽田理事長
 - 乾杯 大島理事
 - 中締め 小澤副理事長

以上

第1号議案

令和5年度事業報告

(令和5年10月1日～令和6年9月30日)

第1 事業の成果

1 事業全般に関する総括

昨年度は、高齢者のニーズを先取りしてデジタルに関するイベントを立ち上げ、一定の効果は上がっているが、当法人（以下「SSI」と称する。）創設時のメンバーの高齢化やコロナ禍の影響が尾を引いていること等もありイベント企画は低調傾向であった。それは必然的に会員勧誘の機会の減少やイベント収入減につながり、同時にSSIの活動意義が十分周知されないことにもつながっている。

現在は、少子高齢社会であり、10年前とは比較にならないほど高齢者を取り巻く環境は激変している。我々シニアが望むことは賢く年齢を重ねることであり、SSIはこうしたニーズに応えるべく活動してきたが、残念ながら必ずしも十分とは言えない状況である。

6年度は、シニアが求める活動の在り方を再検討するとともに、SSIの活動そのものを現代の理論に合わせて組み立てなおし、現在の高齢者に魅力のある組織に立て直す必要がある。

2 事業別の活動状況

(1) 特定非営利活動に関する事業

ア 地域コミュニティ形成に関わる事業

(ア) 井戸端塾

井戸端塾は昨年3月150回記念講演として薬師寺大谷執事長をお招きし、80名の参加を得て盛大に開催された。9月末で154回を重ね、運営も軌道に乗り、当法人のメイン事業として定着している。

(イ) デジタル活用アカデミー（デジ活アカデミー）

新たな取り組みとして、井戸端塾のデジタル活用版としてデジタル活用アカデミー（デジ活アカデミー）を新たに立ち上げた。

第2回ではナノテラス見学会を実施し、34名の参加者があった。普通では見学できない場所を見学できた意義は大きい。今後はシニアのデジタル活用に関するイベントを実施していくが、特に、デジ活では見学など外部に出かけるイベントも実施する。

(ウ) シニアの拠点づくり

コロナの再拡大や会員の高齢化等もあり、イベントの後の懇親会は縮小傾向であった。

(エ) 井戸端かわら版の発行などの広報活動

人手不足等により昨年度は発行されなかったが、広報ツールとしての役割は大きい。来年度は再開に向けて編集体制の見直しが求められる。

(オ) ホームページ・LINEの活用

昨年新ホームページに移行したが、旧版に比べて使い勝手は良く会員の評価は高い。6年度は情報ツールとして積極的に活用を図っていく。

イベント毎にグループLINEを活用し始めた。

イ 事業創出及び雇用創出に関する事業

(ア) 他団体との連携強化

① 仙台市民活動サポートセンターとの連携を強化し、センターから助成金情報や団体の紹介を受けられる関係を構築した。また、仙台市の助成事業については多くのアドバイスを受ける関係になった。

② 日本セカンドライフ協会（JASS）の情報をホームページに情報を掲載し、会員が情報を得られる環境を整備した。

(イ) 行政との意見交換

① 昨年12月に仙台DX推進計画2024-2026に対し、パブコメ、提案書を提出して高齢者目線での意見を提案した。昨年10月に実施したデジタル担当局との意見交換後、高齢企画課、市民協働推進課、健康政策課、プロジェクト推進課等と多くの意見交換を行った。

② 仙台市は、DX（デジタルトランスフォーメーション（デジタルによる変革））を掲げ、市民、企業に対し変革を進めるよう促しているところである。SSIからは高齢者目線で行うべきDXを具体的に提言している（特にスマホ・マイナカード活用、PHR（個人健康情報）活用、提供アプリの使いやすさ、ホームページの利用しやすさなど）。また、仙台市に依頼し、「デジタル学びの会（デジ学）」においてソフトバンクからSSI仕様のLINE応用の講座を実施した。

③ 仙台市の依頼により、産官学プロジェクト（SENSIN（シニアによるスマホ先生（スマティ）））に会員2名が参加し、実プロジェクトで活動した。その知見を「デジ学」で広めるとともに、仙台市、東北大学に多くの知見を提供した。

(ウ) 東北大学他との連携

① 東北大学文学部大学院研究科、スマートエイジング国際研究センターの実験に参加し、シニアのニーズについて多くの知見を提供した。

② 東北大学、市内企業と連携し、会員の協力を得ながら市民共働提案の素案を作成（提案は見送ったが、次年度以降の提案の土台となった。）。

③ 「地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業」を実施している東北大学、菅原学園と連携し、お互いのイベントを紹介し合う取り組みを行った。

ウ 健康増進に関する事業

新規事業として「モルック」、「ビュッフェレストラン六丁目農園ランチ会」を実施した。

エ 社会貢献に関する調査活動事業

(ア) お助け隊

2か所の町内会でスマホ活用について調査を実施した。

(イ) 非居住住宅見守り隊

単独での活動が困難となっていることから、今後はお助け隊との統合を検討する。

オ シニア世代間のネットワーク構築

(ア) デジタル時代におけるシニア支援

5年度は「デジタル学びの会」を11回開催し、延べ59名の参加があった。また、初級クラスと応用クラスに分け、初心者でも参加しやすい体制とした。

(イ) 「デジタル活用アカデミー（デジ活アカデミー）」の開催

本年4月に「デジタル活用アカデミー（デジ活アカデミー）」を立ち上げ、6月にナノテラス見学会を実施した。

(2) 法人運営に関する事業

(ア) 総会・理事会

総会は例年通り年1回11月に開催し、過半数（委任状出席含む）の会員が出席した。また、総会後に「ふじはる」において忘年会を実施し、大いに盛り上がった。

理事会は昨年12月と本年6月に開催し、それ以外の月は、理事同士の意思の疎通と情報交換を兼ねて原則月1回「理事懇談会」を開催した。

(イ) 法人運営に関する現状分析と今後の方向性の検討

理事懇談会等において他団体の状況並びにSSIの現状分析を行い、今後進める方向性について検討を行った。検討の結果、会員増に向けての取り組み、デジタルツールの積極活用、他の団体では実施できないSSIならではのイベントを企画し、産官学との連携強化を行うことで一致した。

(3) その他の事業

(4) 課題

ア 専任事務局員の設置

現状では財政上の理由により専任スタッフを置くことが難しいが、事務局運営には相当な事務作業があるため、専任のスタッフは不可欠である。収益が改善したら最優先で取り組む課題である。

イ 財源の確保

事業収益が改善しない中、昨年度は助成金獲得のため新規会員の協力を得て市民協働提案書作成まで進んだ。この経験をベースにSSIの目指す方向を整理し、助成金の獲得に向けてリサーチを強化する必要がある。

ウ スタッフの高齢化

活動の中心となってきた創業時のメンバーの高齢化に伴い、スタッフの若返りを図る必要がある。

活動計算書

特定非営利活動法人
シニアサロン井戸端会議

自 令和05年10月 1日

至 令和06年9月30日

(単位:円)

I 経常収益

1 受取会費			
正会員受取会費			¥183,500
2 受取寄附金			¥635,500
3 受取助成金			¥0
4 事業収益			
地域コミュニティ形成に関する事業収益	¥88,841		
事業創出に関する活動事業収益			
健康増進に関する活動事業収益	¥557,570		
社会貢献に関する活動事業収益	¥35,800		
シニア世代間のネットワーク構築・情報交換の場の提供に関する事業収益	¥165,108	¥847,319	
3 その他収益			
受取利息		¥0	
会議費	¥93,300		
雑収益	¥7,500	¥100,800	
経常収益計			<u>¥1,767,119</u>

II 経常費用

1 事業費

(1) 人件費			
給料手当			
人件費諸費用		¥0	
人件費計		¥0	¥0
(2) その他経費			
地域コミュニティ形成に関する事業経費	¥17,630		
事業創出に関する活動事業収益			
健康増進に関する活動事業収益	¥644,450		
社会貢献に関する活動事業収益	¥36,370		
シニア世代間のネットワーク構築・情報交換の場	¥241,930	¥940,380	
水道光熱費		¥27,756	
事務用品・消耗品		¥65,600	
広告宣伝費		¥0	
振込手数料		¥4,412	
雑費		¥0	
借入金返済(短期)		¥0	
借入金返済(長期)		¥36,000	
支払利息		¥23,459	
会議費		¥200,499	
その他経費計		¥1,298,106	
事業費計			<u>¥1,298,106</u>

2 管理費

(1) 人件費			
給料手当		¥0	
人件費諸費用		¥0	
(2) その他経費			
旅費交通費		¥0	
通信費	¥27,880		
事務所管理費	¥5,500		
支払家賃	¥585,000		
保険料		¥0	
水道光熱費		¥0	
消耗品等		¥0	
事務用品費		¥0	
広告宣伝費		¥0	
租税公課		¥0	
支払手数料		¥0	

諸会費	¥0	
雑費	¥0	
その他経費計	¥0	
管理費計		<u>¥618,380</u>
経常費用計		<u>¥1,916,486</u>
当期経常増減		<u>¥-149,367</u>
III 経常外収益		
前受け金繰り込み	¥0	
経常外収益計		<u>¥0</u>
IV 経常外費用		
前受け金	¥0	
経常外費用計		<u>¥0</u>
税引前当期正味財産増減額		¥-149,467
法人税・住民税および事業税		¥0
当期正味財産増減額		¥-149,467
前期繰越正味財産		¥214,622
次期繰り越正味財産		¥65,155

貸 借 対 照 表

(単位:円)

特定非営利活動法人シニアサロン井戸端会議

令和06年9月30日現在

		資 産 の 部	
【	流動資産		
	現金	¥35,228	
	預金	¥14,727	
	流動資産合計		¥49,955
【	固定資産		
	(有形固定資産)		
	建物付属設備	¥0	
	什器備品	¥0	
	有形固定資産計		¥0
	(無形固定資産)		
	電話加入権	¥15,200	
	無形固定資産計		¥15,200
	(投資その他の資産)		
	敷金	¥0	
	長期前払費用	¥0	
	投資その他の資産		¥0
	固定資産合計		¥15,200
【	繰延資産		
	創立費	¥0	
	繰延資産合計		¥0
	資産合計		¥65,155
		負 債 の 部	
【	流動負債		
	買掛金	¥0	
	短期借入金	¥0	
	未払費用	¥0	
	未払法人税等	¥0	
	前受り金	¥0	
	預り金	¥0	
	流動負債合計		¥0
【	固定負債		
	長期借入金	¥2,112,000	
	固定負債合計		¥2,112,000
	負債合計		¥2,112,000
		正 味 財 産 の 部	
	設立時正味財産額	¥0	
	前期繰越正味財産額	¥214,622	
	当期正味財産増減額	¥-149,467	
	正味財産合計	¥65,155	
	負債及び正味財産合計		¥-2,046,845

令和04年度 財産目録

令和06年9月30日現在

特定非営利活動法人シニアサロン井戸端会議

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
手元現金	35,228		
仙台銀行普通預金	11,698		
郵貯銀行普通預金口座	971		
郵貯銀行振込用口座	2,058		
現金預金計		49,955	
原材料			
流動資産合計			49,955
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
建物附属施設	0		
什器備品	0		
有形固定資産計		0	
(2)無形固定資産			
電話加入権	15,200		
無形固定資産計		15,200	
(3)投資その他の資産計			
敷金	0		
長期前払費用	0		
投資その他の資産計	15,200	0	
固定資産合計			15,200
3 繰延資産			
創立費	0		
繰延資産合計			0
資産合計			65,155
II 負債の部			
1 流動負債			
買掛金		0	
短期借入金		0	
理事借入金		0	
未払金		0	
未払法人税等		0	
前受け金		0	
預り金		0	
クーポン券		0	
流動負債合計			0
2 固定負債			
長期借入金			
日本政策金融公庫借入金		2,112,000	
固定負債合計			2,112,000
負債合計			2,112,000
正味財産			-2,046,845

令和6年度事業計画

(令和6年10月1日～令和7年9月30日)

1 事業方針

今年度は、昨年度の実績を踏まえ、シニアの最大の関心事である健康寿命延伸にマッチした受け入れられやすい活動を展開する必要がある。

また、昨年度まではコロナ感染を警戒して飲食の機会はやや自粛傾向にあったが、今年度からは会員同士の交流を促進するために積極的に懇親の場を提供することとしたい。

今年度も、昨年度に引き続き次の6つの項目を重点目標として掲げ、実現可能なものから積極的に取り組んでいきたい。

- ② 高齢者支援活動における有償ボランティア活動の推進・強化
- ② 生涯学習としてのセミナーの充実・強化（井戸端塾・デジ活など）
- ③ 同好会活動の活発化と各種イベントの具現化
- ④ 情報発信の強化とマスコミ等の積極的活用
- ⑤ 他団体との連携強化
- ⑥ 事務局体制の充実と法人運営の円滑化と安定化

2 非営利活動に関する事業

(1) 地域コミュニティ形成に係る事業

ア 「井戸端塾」の充実

「井戸端塾」は当法人のメイン事業として定着している。今年度は内容の更なる充実に加え、参加者の一層の拡大を図る。また、「JASS」（注 後記参照）との連携も強化しながら相乗効果による拡大を図る。

イ 「デジ活アカデミー」の更なる取り組み

益々、シニアのデジタル対応が要求されて行く中で、「デジ活アカデミー」を楽しみ、学びを中心に見学なども盛り込み開催する。

ウ 機関誌「井戸端かわら版」の発行

昨年度は人員不足のため発行できなかったが、「井戸端かわら版」は情報ツールとして重要なものであることから、少なくとも年1回の発行を目指したい。ただし、発行のためには多大な労力と特定のスタッフに過重な負担がかかるため、できるだけ負担を分散させる工夫が求められる。

エ 改定パンフレットの活用

昨年度改定された井戸端会議パンフレットをS S IのPR及び新規会員勧誘のツールとして積極的に活用する。

オ 改定ホームページ、LINEの活用

さらなる機能面の充実・改修を行い、より積極的に活用する。
グループLINEも積極的に活用する。

(2) 事業創出及び雇用創出に係る事業

- ア 「JASS」との連携により、活動の幅を広げる。
- イ 行政との連絡を密にし、当団体の有効性を訴求すると同時に助成金の確保、新規事業の可能性を追求する。

(3) 健康増進に関する事業

- ア セミナー「井戸端塾」の中で健康に関するテーマを積極的に取り入れる。
- イ 健康増進を目的とした同好会の活動を積極的に支援する。

(4) 社会貢献に関する事業

ア 「井戸端お助け隊」の事業拡大とスタッフの確保

潜在的なニーズはかなり多いと見込まれるが、派遣スタッフも高齢者である場合が多いことから、スタッフの確保が困難なのが実情である。

今年度はこうした要請に応えるため、スタッフの増員と仕事の受注の拡大に取り組みたい。

なお、「井戸端お助け隊」の事業の中に、町内会などへのデジタルスタッフ派遣、空き家の見守り（有償）を取り入れることを検討する（「非居住住宅見守り隊」は事業としては廃止する。）。

(5) 震災復興等に関する支援活動

昨年同様震災復興等に関する支援活動を行う。

(6) シニア世代のネットワーク構築等に関する事業

ア 各種同好会、イベントの拡大及びその後の懇親会を通じ、会員以外のシニアも含めた交流が深まるよう支援する。

イ 機関誌「井戸端かわら版」、ホームページ等の情報ツールを充実し、法人の活動状況だけでなくシニア世代に共通するタイムリーな情報発信を行う。

ウ スマホ・パソコンの操作に不慣れな会員のための「シニアのためのデジタル学びの会」を充実・強化し、「学びの会」会員の一層の拡大を図る。

エ 同好会活動

現在25の同好会が結成されているが、法人本来の目的を実現するためにも可能な限り積極的に活動を支援していく。

3 法人運営に関する事業

(1) 令和6年度通常総会

令和6年11月に忘年会を兼ねて開催する。

(2) 理事会・理事懇談会

ア 理事会は原則として年2回開催する。

イ 理事懇談会は、原則として理事会を開催しない月に開催する。

4 今後新たに取り組む活動

(1) デジタル関連事業のさらなる強化

スマホを活用した健康寿命延伸活動を強化する。

(2) 若い世代との交流活動

シニアと若い世代との交流を目的としたイベントを企画し、理解不足からくる世代間のトラブルを少しでもなくす活動を行う。具体的には、市内の大学・高校の学生を対象とする。

5 その他

(1) 事務局の設置

現在法人の事務は各理事が分担して行っているため様々な支障が生じている。そこで、法人の業務を一元的に管理するため、会員の中から事務局長を公募する。当面報酬の支給は難しいが、財政が安定すれば一定の報酬を支給することを検討する。

(2) 財源の確保

ア 事業収益の確保

現在実施している収益事業（お助け隊、かわら版の広告収入、井戸端塾の参加費等）を拡大し、収益を確保する。

イ 各イベントの収益を明確にし、四半期ごとに法人に納入する。

ウ 助成金の獲得

助成金についてリサーチし、獲得に向けて活動を強化する。

エ 各企業・団体からの寄付金・広告収入の獲得のための活動を強化する。

オ 無駄な経費節減

(注) JASS

「一般社団法人日本セカンドライフ協会」の略称。明るく活力ある長寿社会の実現を目的に、企業高齢退職者等の社会参加を促進するための新たな交流の場を提供する事業、企業高齢退職者等に対する相談事業、機関誌の刊行などの事業を行う。

(同法人のホームページより転載)

第4号議案

NPO法人シニアサロン井戸端会議

令和6年度事業予算案(案)

令和6年10月1日から令和7年9月30日

(1)収入の部

科 目	予算額	備 考
正会員年会費	¥350,000	(内訳)70名X5,000円+家族会員
新規会員年会費	¥30,000	(内訳)6名X5,000円
協賛金・寄付金	¥30,000	協賛金20000円
寄付金	¥540,000	家賃に充当
地域コミュニティに関する事業	¥100,000	井戸端かわら版(年2回),井戸端塾
健康増進に関する事業	¥500,000	太極拳・ウォーキング・健康の会
社会貢献に関する事業	¥5,000	井戸端お助け隊
シニア世代のネットワーク構築に関する事業	¥180,000	各種同好会
会議費	¥50,000	総会、部会会議費
雑収入	¥10,000	広告収入など
収入合計	¥1,795,000	

(2)支出の部

科 目	予算額	備 考
(事業費)－活動費		
地域コミュニティに関する事業	¥100,000	井戸端かわら版(年2回発行)
健康増進に関する事業	¥500,000	太極拳・ウォーキング・健康の会
社会貢献に関する事業	¥3,000	井戸端お助け隊
シニア世代のネットワーク構築に関する事業	¥180,000	各種同好会
活動費－計	¥783,000	
(事業費)－諸経費		
通信費	¥30,000	
水道光熱費	¥30,000	
事務用品・消耗品	¥100,000	
宣伝広告費	¥0	
支払い手数料	¥15,000	
長期借入金返済	¥36,000	
支払い利息	¥30,000	
予備費	¥50,000	
諸経費－計	¥291,000	
(管理費)		
家賃	¥540,000	
管理費	¥45,000	
諸会費	¥0	
会議費	¥200,000	
管理費－計	¥585,000	
支出合計	¥1,659,000	
収支合計	¥136,000	

役員名簿

(令和6年11月22日現在(総会時))

特定非営利活動法人 シニアサロン井戸端会議

	役名	ふりがな 氏名	備考
1	理事長	はねだまさゆき 羽田正行	
2	副理事長	きくちりえこ 菊地理恵子	
3	副理事長	かみばやしひろし 上林博	
4	副理事長	おざわけんいち 小澤健一	
5	副理事長	おおともひでとし 大友秀俊	
6	専務理事	わたなべともこ 渡部智子	
7	理事	かじ いさお 梶 功夫	
8	理事	おおしままさあき 大島真彰	
9	理事	たかはしよしのぶ 高橋義信	
10	理事	いずみなおみ 和泉直美	
11	理事	さとう たもつ 佐藤 保	
12	理事	おわり 尾張はるみ	
13	監事	よこはまけいこ 横濱敬子	